



町田市立国際版画美術館 展覧会図録

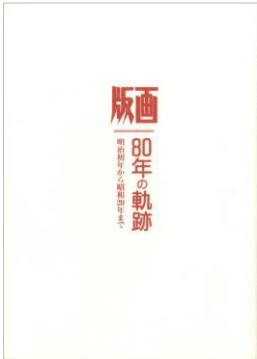
【 1996年 ~ 1987年 】

- ・お申し込みは希望図録名を明記のうえ、現金書留で当館まで代金をお送りください。
その際、図録代は現金、送料は切手をお願いいたします。現金書留の料金はお客様でご負担下さい。
- ・2冊以上お申し込みの場合の送料についてはお問い合わせ下さい。

版画・80年の軌跡

第1部・第2部

展覧会 1996/4/13~7/28



明治初年以来、人々はさまざまな出版物を通して「版の絵」に親しんでいました。それにもかかわらず、わが国の近代版画芸術が、明治30年代後半に萌芽を見た創作版画運動から語りはじめられることが多いのは、周知の事実です。

たしかに、西洋文化の移入によって生じた自我の確立を旗印にして、自画・自刻・自摺を標榜するこの積極的な活動が、近代的な芸術的営みであったことは、誰しもが認めるところです。しかしながら、伝統と革新が入り乱れ、新しい秩序が生まれようとしていたわが国の近代美術界において、創作版画運動のみに立脚した一方的な語りは、当時の一側面しか見ていないというのまた事実ではないでしょうか。それは、この時代に版画的な営みを行なっていたほかの多くの人々やその作品を、意識的にしろ無意識的にしろ、脇におしやるものといえます。さらに「印刷」という、版について考えるうえで重要な位置を占める問題も、とすれば遠く意識の外に置かれてしまいがちです。そして、明治以後の浮世絵系の伝統的な創作活動は、具体的に検証されることなく、形式的な言及をもって切り捨てられてきたことは否めない事実なのです。こうした経緯から、今ここにいたって、近代における版画芸術を考えるうえで種々の疑義や矛盾が生じてきています。

そこで、今回の展覧会においては、日本の近代を明治元年（1868年）から昭和20年（1945年）までととらえ、近代における版に関わる創作活動とはどのようなものであったかを、印刷文化をも視野におさめた包括的・通史的な展開によって問いなおしてみることにしました。それによって、わが国の近代における造語であり、芸術的価値観をもった「版画」というものについて、再検討を試みると同時に、印刷文化における創作的営みとは何かを検証してゆきたいと考えます。そしてまた、伝統から創作へと変質してゆく浮世絵系の作品についても、再検討を加えてみたいとおもいます。

第1部-刷り絵（伝統から近代へ）

図録目次

「刷り絵」から「版画」へ 青木茂 / 図版 / 作品目録

図録体裁

■発行日：1996/4/13 ■頁数：204ページ(カラー32ページ) ■サイズ：210mm×150mm ■重量：410g

図録価格 850円 送料 300円(切手をお願いします)

第2部-絵画としての版画

図録目次

版の絵から絵画への萌芽-刀画《漁夫》をめぐる 河野実 / 図版 / 作品目録

図録体裁

■発行日：1996/6/4 ■頁数：218ページ(カラー32ページ) ■サイズ：210mm×150mm ■重量：440g

図録価格 850円 送料 350円(切手をお願いします)

中国の洋風画展

明末から清時代の絵画・版画・挿絵本

展覧会 1995/10/8~11/26



中国における洋風画の出発は、1582年にキリスト教の布教のために、イエズス会士マッテオ・リッチが入華した時から始まります。そして私達が即座に思い起す洋風画家として、郎世寧を想起させ、更に郎世寧の影響を受けた焦秉貞や冷枚らの存在を思い出すとともに、彼らの遠近・陰影法を駆使した作品が目につきます。また、版画の世界では焦秉貞の《御製耕織図》や蘇州版画が私達に馴染み深い存在であります。しかし中国の洋風画は、中央の画院での作品や、蘇州版画的に、いわゆる浮き絵・目鏡絵もしくは泥絵・ガラス絵と称される民間芸術があり、その当時巷に流布していたことは余り知られていません。それは民間芸術以外にも、先に挙げた画院での作画活動について、更にわが国の近世絵画とも深い関係があるのに、その内容があきらかになっておりません。

そこで今回の企画では、中国に根幹を置きながら、その視野を東洋に向け、東洋の歴史観が西洋文化や思考方法を受け入れようとした時、視覚世界で表現されるものは何か。次に、中国と日本との受容方法の相違とは何か。そのことを絵画作品を通して考えてみようと思います。

具体的には、明・万暦11年（1583）にイエズス会士マッテオ・リッチ（中国名 利瑪竇）が、キリスト教の布教のために入華した折に、持ち込まれた宗教的絵画、銅版画による挿絵本が、中国人画家の手を介して臨写されることによって、どのように変容したかを考えるために、中国の画家達が描いたキリスト教に関する挿絵本と原本とを比較してみました。次に、招来された銅版画挿絵本から得た発想を、極めて自然に、自己の絵画作品の中に取り入れ、中国絵画への新しい試みに参画した画家や作品を紹介し、中国の版画の変革について考えてみました。更に布教のために入華し、中国に帰化し、自己の西洋的素養を中国の筆法の中に溶け込ませ、ジョゼッペ・カスティリオーネ（中国名 郎世寧）に代表される帰化人画家達の存在について提示をしたと思います。

版画芸術の世界に於いては、先ず最初に清代乾隆期に制作された中国最初の銅版画類を数多く紹介し、西洋絵画と中国絵画の直接的な接点について考え、次に我が国にも馴染みの深い蘇州版画について、都市風景を中心に展示をおこなう、中国の俯瞰表現と西洋の遠近法の係わりについて再考できればと思います。そして、最後に世界地図や啓蒙書を紹介することによって、当時の中国の人々の世界観の変化について検討いたします。

図録目次

中国の洋風画について 青木茂 / 民間における西洋画法の受容について 河野実 / 中国画にみる西洋画的表現 小林宏光

西洋画の影響を受けた清代前期絵画 吉田晴紀 / ジョゼッペ・カスティリオーネ（郎世寧）の生涯とその評価 新関公子 /

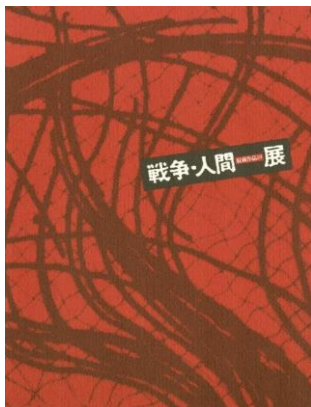
東・西の遠近表現 飯野正仁 / 観音大士五十三七現像 内田啓一 / 万暦-乾隆間の西洋絵画の流入と洋風画 鶴田武良 /

ポツォの『画家と建築家のための遠近法』について 池上英洋 / 図版 / 年譜 / 出品目録 / 参考文献

図録体裁

■発行日：1995/10/8 ■頁数：514ページ(カラー40ページ) ■サイズ：275mm×215mm ■重量：2100g

図録価格 1,800円 送料 610円(切手をお願いします)



有史以来、人類はたびたび戦争を繰り返してきました。国を二分して起こった戦争、国と国とが争う戦争、世界的な規模で行われる戦争など、その勃発と終結のあり方はさまざまです。近代以降では、戦争技術も飛躍的に「進歩」して、最新鋭の戦闘機やミサイル、核爆弾などの殺戮兵器や化学兵器、細菌を使った生物兵器など、今やひとたび戦争が始まれば、瞬時に膨大な数の人を死に追いやるすることができます。また、化学兵器や生物兵器などが使用されれば、何世代にもわたって地球環境へ影響を及ぼす可能性が考えられます。いずれにしても、戦争は人間にとって極めて重大でおそろべき存在であると言うことができます。

戦いによって多数の人の命が奪われ傷つけられるという側面から見れば、人間社会における戦争の存在は極めて忌まわしいものと即座に断言できるでしょう。しかしそれでもなお、歴史の流れの中にたびたび戦争が登場し、今現在もこの地上から戦火が絶えないという事実を見ると、戦争と人間とのより根源的な関係を考えずにはいられません。

こうした戦争を何らかの形で体験し、後世へその記憶を残そうとした版画家は少なくありません。16世紀末-17世紀の版画家ジャック・カロや18世紀-19世紀の画家で版画家のフランシスコ・ゴヤ、第一次世界大戦に実際に従軍したオットー・ディックス、太平洋戦争の終結後、妻と病気の乳児をかかえて引き揚げてきた記憶を17点の木版画に制作した北岡文雄、やはり太平洋戦争に兵士としてかかわった記憶を高度にイメージ化した浜田知明など、直接的にせよ間接的にせよ、それぞれの目と感性で捉えた作品は、強烈な個性で私たちに語りかけます。

この展覧会は収蔵作品約140点で構成し、戦争体験に触発されたすぐれた版画作品の数々をご紹介します。

図録目次

図版 / 出品リスト

図録体裁

■発行日：1995/7/30 ■頁数：48ページ ■サイズ：275mm×215mm ■重量：250g

図録価格 500円 送料 300円 (切手でお願ひします)



木村光佑、松本旻、黒崎彰の各氏の作品についてはそれぞれ60点以上もの作品を収蔵していますが、いずれも1960年代から80年代にかけてのもので、なかでも70年代の作品を数多く収蔵しています。その70年代の作品で共通していることは、各氏とも一つの技法にこだわらない明らかに異なった2種類以上の技法を用いて作品を制作し、それによって多彩な作品を表現していることです。

一例をとると、木村光佑はリトグラフとシルクスクリーンやリトグラフとエンボスで、松本旻は木版と亜鉛凸版やカラージュで、黒崎彰は木版とシルクスクリーンや写真凸版でそれぞれ個性的な作品を発表しています。

一方、この3人は生年もほぼ一緒で、70年代は30代後半から40代前半、作家として最も活動的な時期であり、多様化する表現と版画大國日本のなかで最も興味深い年代でもあります。また、周知のように世相的にも70年代は激動の時代であり、注目すべき年代といえるでしょう。この展覧会では3人の70年代に制作した作品を中心にみることで、その足跡と表現の特色を見直してみたいと思います。

図録目次

見えない部分の存在-70年代を振り返って 木村光佑 / 対象の配置と色彩 松本旻 / 色彩のよここび 黒崎彰 / 図版 /

図版リスト

図録体裁

■発行日：1995/2/19 ■頁数：64ページ (カラー16ページ) ■サイズ：275mm×215mm ■重量：390g

図録価格 500円 送料 300円 (切手でお願ひします)



この度、「もろびときたりてみてござれ-江戸から明治の麗しの版画-」展を開催します。このタイトルは当時の人々が版画に対して大いに興味をもち、不思議なものや面白いものを選んで見たがるという好奇心旺盛さから名付けたものです。人々はイメージの豊かさからくる様々な画題や画面にあらわされた登場人物に領いたり批評したりしたのでしょう。

江戸から幕末、明治にかけて版画で種々雑々なものが制作されます。木版を駆使した出版物や浮世絵、そして西洋の影響のもとに制作された銅版画など様々な展開をします。そして、この種々雑々なものが日本文化の一端でもあります。この展覧会では町田市立国際版画美術館の収蔵品を中心として江戸から明治の版画を展覧し、一元ではとらえることのできない多面的な文化を楽しんで頂きたいと思ひます。

図録目次

図版 / 図解 / 図版目録

図録体裁

■発行日：1994/7/24 ■頁数：48ページ (カラー8ページ) ■サイズ：220mm×140mm ■重量：140g

図録価格 350円 送料 215円 (切手でお願ひします)

大和路の仏教版画

展覧会 1994/2/20～3/27



我が国を代表する木版画であり、仏教美術の一翼である仏教版画の調査・研究は、今日までのところ、まだ盛んに行われているとはいいがたい。その理由には様々な点を指摘できるが、版画史にとっても大切な分野でありながら研究が進んでいないことは誠に残念なことである。

町田市立国際版画美術館では武蔵野美術大学教授田辺三郎助氏の協力を得て調査団を組織し、基礎的な調査を行ってきた。保存状態があまり良好とはいえない多くの仏教版画を相手にし、また、同じものを何枚も何枚も根気よく調査していき、写真に納めていく労多くして功少なき仕事である。しかしながら、調査を続けていくことで少しずつであるが仏教版画というものがみえるようになってきたという。その成果の一部が本書である。

仏教版画は美術史・版画史の観点からみて重要な問題を含んでいることは勿論であるが、仏教史や中世史、民俗誌などの観点からみても種々の問題を提起してくれている。本書がその研究の一助となることを願ってやまない。

目次

仏教版画の基本的用語 内田啓一 / 第1部 仏教版画の美 / 第2部 仏教版画の周辺-中世・勸進・結縁・供養 / 像内納入品の種々相 稲木吉一 / 鎌倉前期の奈良仏師 田辺三郎助 / 仏教版画と結縁 内田啓一 / 西大寺叡尊とその周辺 内田啓一 / 聖徳太子信仰と中世大和の寺院 小野一之 / 経典と印塔・印仏 内田啓一 / 参考文献一覧
体裁

■発行日：1994/2/20 ■頁数：160ページ（カラー8ページ） ■サイズ：220mm×140mm ■重量：370g

図録価格 750円 送料 300円（切手をお願いします）

「西廂記と明代の挿絵本」展

展覧会 1993/1/5～2/14



西廂記は唐代の“鶯鶯伝”という恋物語が、金代に“董西廂記”となり、元代において王実甫によって演劇化されたもので“琵琶記”と並び称される中国の一大戯曲であります。

明代に入り印刷文化が活気を見せる中で、中国の多くの民衆に支持された西廂記は版を重ね、中国国内に数多く流布することになります。この時代の書籍は、当代を風靡した画家陳洪授汪耕らの絵師達が挿絵製作に積極的に参画し、さらに黄一彬、黄一楷らの優れた彫師の技が加わり、優美な版画・挿絵本が完成し出版されました。このことは、言うまでもなく“西廂記本”に限らず、明・清初期全般に言えることでもあります。正に中国の挿絵本の黄金時代です。

今回の企画は“西廂記本”を骨格に据えながらも、明代を代表する“琵琶記”“南柯夢記”“紅拂記”“邯鄲記”等の挿絵本を同時に公開し、中国の版画芸術興隆期である明代の優美な版画芸術の粋を、鑑賞できる様に組み立てました。

図録目次

『西廂記』の歴史 張国風 / 図版 / 出品目録

図録体裁

■発行年：1993 ■頁数：30ページ（カラー8ページ） ■サイズ：295mm×210mm ■重量：230g

図録価格 500円 送料 300円（切手をお願いします）

TOKYO まちだ国際版画展

展覧会 1993/10/10～11/28



本展は、多摩東京移管百周年記念事業（TAMAらいふ21記念事業）の地域企画プログラムとして位置づけられ、美術館と地元商店街との共同イベントとして開催されます。

世界24カ国から56人の作家、141点の作品を集めての展覧会です。

図録目次

図版 / 作品リスト

図録体裁

■発行日：1993/10/10 ■頁数：128ページ（カラー80ページ） ■サイズ：295mm×225mm ■重量：600g

図録価格 1,500円 送料 350円（切手をお願いします）

久保貞次郎と芸術家展

展覧会 1993/6/13～7/25



久保貞次郎（1909-）は〈創造美育協会〉の創立に参画するなど児童美術の分野で活動する一方で、1950年代に〈版画友の会〉や〈小コレクター運動〉を発足させ版画頒布を行い、版画普及の推進者のひとりとしても活動しています。また、同時期に画家や彫刻家に版画制作をすすめたり新人作家に積極的に支援することで、明治以来の創作版画運動によって切り開かれた土壌に開墾の手を加えたことは特筆できます。

最初久保貞次郎は教育学を専攻しますが、1935年に前衛画家杉田秀夫（後の瑛九）に出会ったことをきっかけに美術界に足をふみられます。それ以後瑛九を中心に数多くの芸術家に出会っていきます。中でも戦前出会った瑛九、北川民次、オノサト・トシノブらとは深く親交し最高の理解を示しました。戦後には鬮囀や池田満寿夫など新しい芸術を志す若手の作家にいち早く注目し、様々な面から作品制作活動の手助けをしています。

本展では、久保貞次郎という戦後美術の擁護者、啓蒙家が出会い交流を深めた作家の版画を中心として約80点の作品を展示し、久保がどのような美術に関心をよせていたかをさぐります。同時に、日本の近代美術に久保が如何なる役割を果たしてきたかを検証いたします。

図録目次

初代館長久保貞次郎 河野実 / 久保さんとデモクラート 鬮囀 / 図版 / 久保貞次郎略年譜 / 作家略歴 / 作品目録

図録体裁

■発行日：1993/6/13 ■頁数：80ページ（カラー12ページ） ■サイズ：240mm×190mm ■重量：330g

図録価格 600円 送料 300円（切手をお願いします）

芹沢銈介と型染展

展覧会 1993/6/13～7/25



芹沢銈介は染色界で活躍し、人間国宝にも認定された作家です。その作品の多くは型絵染と称される技法によって制作され、数々の名作が生み出されました。この展覧会では芹沢銈介独特のデザイン・センスと造形感覚で生命を与えられた作品の数々を展示いたします。芹沢銈介の作域は幅広くのれん・着物・屏風・壁掛など、どれを取っても素晴らしいものばかりです。

また、芹沢銈介は世界各国の民芸品収集家としても知られていますが、そのコレクションの一部を紹介し、芹沢銈介の人と眼識をも見て頂きたいと思えます。

加えて、芹沢銈介の技法・型絵染に関係する我が国染色の伝統的な技法・型染を取り上げ、技法そのものと型で仕上げられた作品を中心に、我が国型染作品の歴史にも注目してみたいと思います。

図録目次

芹沢銈介の型染の仕事 勝間田昌子 / 型染の歴史概説ノート 内田啓一 / 図版 / 芹沢銈介関係略年譜 / 出品目録

図録体裁

■発行日：1993/6/13 ■頁数：104ページ（カラー48ページ） ■サイズ：275mm×215mm ■重量：540g

図録価格 750円 送料 350円（切手をお願いします）

レンブラント銅版画展

展覧会 1993/4/18～5/30



レンブラント・ファン・レインがオランダの17世紀美術を代表する画家であり、同時に銅版画の制作にも取り組んだことはよく知られています。エッチング作品は300点以上におよび、その画業の全体像は版画作品をぬきにしては語れません。

エッチングの歴史は16世紀のはじめに遡ることができます。以来レンブラントが生まれるまでの100年ほどの間に、幾多のエッチング作品が生みだされました。とくに17世紀のオランダでは、エッチングが黄金時代を迎えます。そこで重要な役割を果たしたのが銅板画家としてのレンブラントにはかなりません。その偉業は、同時代はもちろん今日にいたるまで、世界的な規模で多くの美術家たちによって綿々と受け継がれてきました。版画が盛んなわが国にあっても、レンブラントは、もともとよく知られ、崇敬を集めてきた版画家のひとりです。しかも、ヨーロッパでもっとも早い時期に、日本からもたらされた和紙に版画を刷った人物、それがレンブラントなのです。レンブラントはその意味で、わが国にとって、とりわけゆかり深い版画家ともいえましょう。

このたびの展覧会では、多くのレンブラントのエッチングの中から、152点を選んで展示いたします。

図録目次

新たな光のもとに・版画家レンブラント テオ・ラウレンツィアス / 図版 / カタログ / 年譜 / 文献 / 作品年表

図録体裁

■発行日：1993/4/18 ■頁数：204ページ ■サイズ：280mm×215mm ■重量：810g

図録価格 1,350円 送料 460円（切手をお願いします）

シルクスクリーンとモノタイプ アメリカとヨーロッパの版画 展覧会 1993/2/21~4/4



1960年代のアメリカやヨーロッパを席卷したポップ・アートとともに急速に拡大したシルクスクリーンの技法は、現代美術と歩みをともしながらすでに30年以上もの歴史を経ています。また、モノタイプの作品も、現代アーティストたちによって再び注目を浴びるようになってから、すでに20年以上の歳月がたとうとしています。

ガラス・鏡・塩化ビニルなど、さまざまな素材の面に版画を刷る技術・写真を多種に活かした制作技術・金属粉やカーバイトなどを混入した新しいインクによる画面構成など、ここ数十年に行われたいろいろな試みは、多くの部分で、シルクスクリーンの発展と結びついていると言えます。一方、モノタイプの作品も、金属板を用いたものから、ペニャ板などを用いたもの、煙の粒子を紙に吸い取らせたものまで登場し、そうした作品の言わば受け皿となるべき版用紙自体への関心をも加えて、多くの研究と実践がなされています。

この展覧会では、当館収蔵作品を中心に、12人のアーティストによるシルクスクリーンと9人のアーティストによるモノタイプの作品をご紹介します。

図録目次

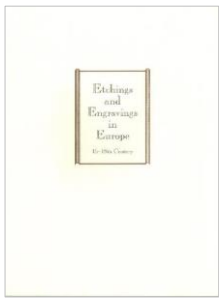
図版 / 出品リスト / 主要参考文献

図録体裁

■発行日：1993/2/21 ■頁数：96ページ（カラー14ページ） ■サイズ：275mm×215mm ■重量：460g

図録価格 750円 送料 350円（切手をお願いします）

西洋の銅版画 15世紀~18世紀 展覧会 1992/8/2~



町田市立国際版画美術館は、古今東西の版画の歴史を体系的に理解できるようなコレクションを形成しようという基本的な収集方針に沿って、各世紀の代表的な作品を収蔵すべく鋭意努力してまいりました。海外の版画作品も4000点以上を数えるまでになり、そのなかにはわが国では比較的目的にする機会の少ない、古い作品も多く含まれています。そこで、本展では、ヨーロッパの18世紀までの版画のなかからとくに銅版画に的を絞って展覧いたします。

図録目次

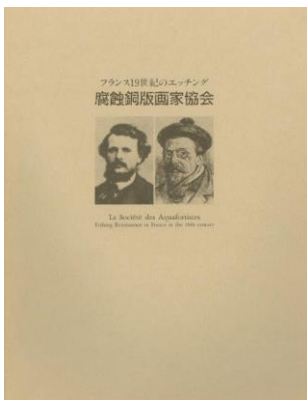
出品リスト / 図版 / 展示作家生没年表

図録体裁

■発行日：1992/8/2 ■頁数：48ページ（カラー3ページ） ■サイズ：295mm×210mm ■重量：230g

図録価格 700円 送料 300円（切手をお願いします）

腐蝕銅版画家協会 フランス19世紀のエッチング 展覧会 1992/8/2~9/27



版画はかつて芸術のための手段であるだけでなく、図像の複製や印刷など実用的な役割も担っていました。芸術と実用、この両面で西欧の版画の中心的存在であったのが銅版画です。しかし写真などの新しい技術に実用的役割を奪われたこともあり、19世紀前半、銅版画はその勢いを失います。銅版画は近代にふさわしい芸術に生まれかわるか否かの岐路に立たされていたのです。

ここで登場するのがエッチングです。銅版画のなかでは最も簡単に制作でき、ニードルをペンのもつて、紙にデッサンを描くように版にイメージを描けるこの技法に、画家たちが新しい表現の可能性を見いだします。それは個性を自在に表現できるという可能性でした。

こうしたエッチング復活の動きを集成し明確なひとつの運動にまで高めたのが、1862年パリで設立された「腐蝕銅版画家協会」です。

エッチングを芸術として高めようという使命感に燃えその出版に生涯をかけた出版者カダール。「レンブラントが生きていたら彼に刷ってほしいと版を差し出したに違いない」といわれ、天才と謳われた刷り師ドラートル。他の画家たちに技法を教え広めた画家ブラックモン。この3人を中心として、同協会には多くの画家たちが参加しました。同協会の記念碑的作品が、1862年から67年にかけて刊行され、およそ130人の画家による300点のエッチング作品を集めた『腐蝕銅版画家協会』集です。ここに集められた作品の内容はさまざまです。有名画家、無名作家、素人-彼ら誰もがエッチング制作に魅力を感じ、この技法のもつ可能性をそれぞれの方法で追究し、表現させています。

本展では、カダールとドラートルの二人に焦点を合わせながら、この『腐蝕銅版画家協会』集の概要をご紹介します。近代にふさわしい芸術として銅版画が生まれかわる過程と、どのようにその性格をかえていったのかをご覧いただければと考えています。

図録目次

版元カダールと腐蝕銅版画家協会 和南城愛理 / 忘れられた刷り師オーギュスト・ドラートル 気谷誠 / 図版 / インデックス /

腐蝕銅版画家協会規約・序文 / 参考文献

図録体裁

■発行日：1992/8/2 ■頁数：98ページ ■サイズ：275mm×215mm ■重量：500g

図録価格 750円 送料 350円（切手をお願いします）

コレクションによる戦後の日本版画展

展覧会 1992/4/12～6/14



今回開催を予定している展覧会は、作家やご遺族の方々から寄贈いただいた版画と、それらを基盤として収集された当館のコレクションの一部を、二つのコーナーを設けて紹介するものです。一つは、“戦後の版画-創作版画から現代版画へ”というコーナーです。ここでは、創作版画から現代版画への時代の幕開けを告げる、或は現代版画の黎明期に位置づけることが可能な作家の作品を展示します。もう一つは、“多様化する表現-版画王国の建設”というコーナーで、ここでは、1950年代後半の開花期から’60年代、’70年代に多様な広がりを見せる日本版画のなかで、欠かすことのできない作家の作品を中心に展示します。

図録目次

戦後の日本版画展開催にあたって 河野実 / 図版 / 出品リスト / 文献目録

図録体裁

■発行日：1992/4/12 ■頁数：125ページ（カラー42ページ） ■サイズ：275mm×215mm ■重量：600g

図録価格 1,000円 送料 350円（切手でお願ひします）

奈良・元興寺仏教版画展

展覧会 1992/2/16～4/5



元興寺は飛鳥時代に日本最初の寺として建立された法興寺を前身として栄えた寺院でした。平安時代には一時衰退しましたが、浄土を感得した僧・智光に由来する極楽坊を中心として平安末期より庶民の信仰を集め、鎌倉時代にかけて大いに発展しました。

我国において、仏教版画は平安後期より制作され始め、鎌倉時代に入ると、貴族、武士、庶民などあらゆる階級の人々に親しまれ始めました。仏教版画は制作されると一人一人に渡されたり、仏像を造立する際にその像内へ納めたりしたのです。

本展覧会では奈良元興寺の多大なご協力を得て、元興寺の什宝である鎌倉時代を中心とした仏教版画を御出陳いただき、造形美と背景にある信仰を探りたいと思います。

図録目次

極楽坊と庶民信仰 辻村泰善 / 元興寺の仏教版画 菊竹淳一 / 像内納入品 田辺二郎助 / 元興寺極楽坊木造聖徳太子立像と木造弘法大師坐像 小泉充康 / 図版 / 図版解説 / 参考文献 / 図版目録 / 英文リスト / 英文概説

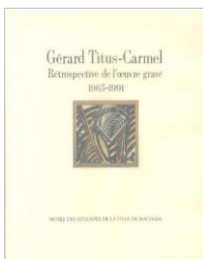
図録体裁

■発行年：1992 ■頁数：170ページ（カラー15ページ） ■サイズ：220mm×140mm ■重量：370g

図録価格 650円 送料 300円（切手でお願ひします）

ジェラルール・ティテュス=カルメル全版画1965-1991

展覧会 1991/10/13～12/1



今井圭介「G. ティテュス=カルメルの版画における技法と表現『船具』『連作ナルヴァ』『馬鎧』を中心に」による抜粋

ジェラルール・ティテュス=カルメル（1942年パリ生まれ）は、フランスを拠点に制作活動をおこなっている気鋭の作家である。16-20歳の時、パリのエコール・ブールで版画（エングレーヴィング）、建築、装飾、デッサン等を学び、25歳で最初の個展を開いている。

ティテュス=カルメルは、ものとの関わり、あるいはその存在に深く触発され、日常的素材（木の枝、布、紐、箱等）を使って構成した様々なオブジェ（f i g. 1）や、旅行のおりに見つけた土産物をモチーフにして普遍的イメージの世界を提示してみせる。

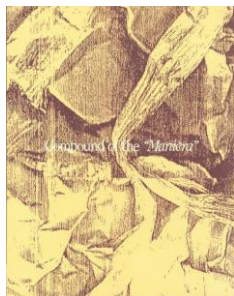
図録目次

歴史から四季へ ジェラルール・ティテュス=カルメルの批判的作業について 阿部良雄 / G. ティテュス=カルメル-記憶のエクリチュール 前野寿邦 / G. ティテュス=カルメルの版画における技法と表現『船具』『連作ナルヴァ』『馬鎧』を中心に 今井圭介 / G. ティテュス=カルメルの版画作品 高木幸枝 / 図版 / 作品総目録 / 資料

図録体裁

■発行年：1991 ■頁数：166ページ（カラー37ページ） ■サイズ：275mm×215mm ■重量：700g

図録価格 1,750円 送料 350円（切手でお願ひします）



現在の美術には、社会現象と一致して、ひとつの特徴的な現象が見られます。複合性、脱領域などの言葉によって表すことができる表現現象がそれです。“マニエラ”とは、イタリア語で本来「手法」の意を持つ語ですが、その他にも、時代様式、作風など様々な意味に用いられてきました。本展のタイトル“マニエラの交叉点”は、制作の方法論、形式、イメージが自在に交通する現在の美術とその状況を象徴的に表現したものです。

表現における複合性は、'80年代以前に登場した作家の作品にも見られ、決して今日に始まったことではありません。しかしその“複合性”は、'80年代的な脱領域化する表現とは異質な傾向にあります。

こうした状況は、ひとつには、'80年代になって急に動きだした写真表現によって表面化したものです。現代の版画においては、写真との交通、そして、版画技法の特性を最大限に利用しながらも絵画的領域へと意識をむけた表現に、この複合性をみることが出来ます。

19人の作家の作品により構成される本展は、現代の版画と映像表現における「複合性」に着目し、一定の様式の中にはおさまらない、その多様な様相を確認し、'90年代における美術の展開を探ろうとするものです。

図録目次

<版画としての版画>と<現代美術としての版画> 正木基 / 消費社会の美術 山本和弘 /

版と映像による表現の現在-出品作品をめぐって 滝沢恭司 / 図版 / カタログ / 出品リスト

図録体裁

■発行日：1991/4/14 ■頁数：100 (カラー33ページ) ■サイズ：275mm×215mm ■重量：500g

図録価格 1,000円 送料 350円 (切手でお願ひします)

アメリカ・ヨーロッパ現代版画展

展覧会 1990/8/12~9/30



第二次世界大戦以降のアメリカやヨーロッパでは、美術の上のさまざまな新しい試みが活発におこなわれ、《美》そのものに対する意識や考え方は大きく変わってきています。《抽象》の概念も、戦後さらに発展して、さまざまな新しい形態を生み出すと同時に《美》の存在自体を問いかけるような観念性の強い作品も数多く生み出しています。一方、1960年代のアメリカを舞台に華々しく登場したポップ・アートの作品群は、大きくふくれあがった都市の文化や消費社会のイメージをそのまま美術へと取り入れ、従来の芸術観を全く打ち崩してしまいました。また、1980年代の今、イタリアやアメリカなどを中心にさらに新しいイメージの波が起っています。ここでは、夢、神話、暴力、死などのイメージが荒々しいタッチで描かれています。こうした新しい傾向の美術は、第二次世界大戦後急激に成長した版画工房の動きと呼応して、数多くの版画作品を世に送り出しているのです。

この展覧会では、1980年代に制作された版画作品を中心に、第二次世界大戦後のアメリカやヨーロッパでわき起こった美術の一断面とその新しいイメージの魅力をご紹介します。

図録目次

図版 / 出品リスト / 作家解説

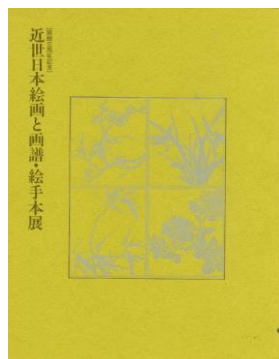
図録体裁

■発行日：1990/8/12 ■頁数：108 (カラー24ページ) ■サイズ：275mm×215mm ■重量：450g

図録価格 750円 送料 350円 (切手でお願ひします)

近世日本絵画と画譜・絵手本展 I・II

展覧会 1990/4/19~6/17



版画を中心として中国で刊行された画譜は、我国にもたらされ、当時の絵師に研究され、やがてそれを手本として絵が制作されるようになります。中国の画譜は様々な点から近世日本絵画に影響を与えました。

展示では、中国画、狩野派、琳派、南画、長崎派にテーマを分け、中国画譜が及ぼした影響を示し、画譜そのものの系譜と姿を見ることで、画譜の意義と美しさを確認していただこうと思います。

第I巻

図録目次

絵画と版画 佐々木剛三 / 図版 / 作品解説

図録体裁

■発行日：1990/4/19 ■頁数：162ページ(カラー107ページ) ■サイズ：275mm×215mm ■重量：700g

図録価格 1,000円 送料 350円 (切手でお願ひします)

第II巻

図録目次

図版 / 論文・出陳目録

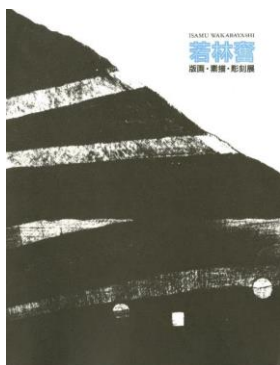
中国画譜の舶載、翻刻と和製画譜の誕生 小林宏光 / 『帝鑑図』小解 榊原悟 / 光琳百図の基底 河野元昭 /

中国画譜と日本南画の関係 武田光一 / 沈南蘋と長崎派画譜 近藤秀実

図録体裁

■発行日：1990/4/19 ■頁数：188ページ(カラー8ページ) ■サイズ：275mm×215mm ■重量：750g

図録価格 500円 送料 350円 (切手でお願ひします)



若林奮氏は、町田に生まれ、長く同地に生活の基盤をおいて創作活動を続けていた、彫刻家です。1959年に最初の個展を開いて以来、通常概念からはみ出た、特異な形態をした鉄の彫刻を発表してきた若林奮氏は、'60年代既に高く評価されています。'70年代中頃は、『振動尺』『100粒の雨滴』といった彫刻を発表し、世界や風景と人間の意識との間の距離を測定するといったところみを展開させます。'80年代にはいると、限られた空間と開かれた空間を如何にして把握するかといった問題をめぐり、一種の部屋、そして庭園などの制作を行っています。若林奮氏の版画制作は1975年ころから本格的に始められ、現在までに90点ほど制作されています。それらのほとんどは銅版画とリトグラフの白黒作品ですが、彫刻同様、素材とイメージの間を何度も行き交い思考する、若林奮氏の深く内に沈潜した世界が出現していることが伝わってきます。また、近年多くの版画を制作していることから、若林氏の作品における版画の重要性はますます高まっています。この展覧会は、収蔵品約40点に最近作を含めた、若林奮氏の版画世界の全貌と、郷里町田での体験に基づいた素描、版画と関係の深い彫刻など、合わせて120点ほどで構成します。

図録目次

「放蕩息子」の帰還 市川正憲 / 私有する時間と空間-若林奮の版画をめぐって 滝沢恭司 / 図版 / 略年譜 / 文献目録 /

出品目録

図録体裁

■発行日：1990/2/18 ■頁数：88ページ（カラー7ページ） ■サイズ：275mm×215mm ■重量：450g

図録価格 750円 送料 350円（切手でお願ひします）



本企画は、1988年3月、北京の中国美術館で開催された「艱巨歷程（巨難の歴史）全国写真コンクール優秀作品展」の出品作品を展示するものであります。作品の中には、撮影されたものの、様々な理由により、これまで公表されなかった報道写真が数多く含まれています。それだけに、同展は北京で大きな反響を呼び、初めて建国以来40年にわたる新生中国の真実の姿に触れた中国人たちに深い感動を与えました。私たち日本人としても、中国という身近な国とそこに住む人々をどれだけ理解していたかを改めて考えさせるものであります。それと同時に、メディアとして重要な地位を保ち続けてきた写真の真実性と虚実性、その大きな社会性などを考察する端緒となるものであります。共同通信社は、当初からこの写真展の意義を認めて日本での開催を企画、同展開催で中心的な役割を果たした陝西日報社（西安）に協力を求めました。その結果、約2万2000点の応募写真から230点を日中共同で選定し、世界に先駆けて独占公表権を取得しました。そして今回、その中から厳選した150点を展覧することになりました。

図録目次

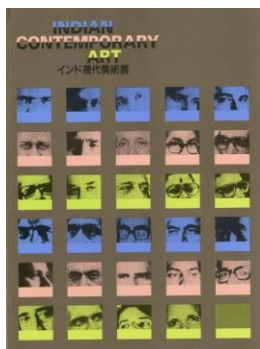
中国全土から集められた写真の意義 張光 / 日本で公開されるまでのいきさつ 伊藤正 / 写真作品 / 中国40年の歩み

福原亨一 / 主要人物解説 / 中華人民共和国略年表 / 中国地図 / 写真作品撮影者（名簿）

図録体裁

■発行日：1989/7/2 ■頁数：132ページ（カラー12ページ） ■サイズ：250mm×260mm ■重量：650g

図録価格 1,000円 送料 350円（切手でお願ひします）



これまで日本とインドの現代美術についての交流は、日本からみますと、インド・トリエンナーレへの参加や、一昨年秋にニュー・デリーの国立近代美術館で行われた「日本現代絵画展」などがあり、インドからみますと、東京国立近代美術館をはじめとして、数回にわたって行われた「インド現代美術展」などがあります。しかし近代化のおくれ気味であったアジアの現代美術全般にわたって、アジア相互の交流は円滑でなく、インドとの交流も決して活発であったとはいえません。

その意味で、「インド祭」の一環として実施されるこの展覧会は、この交流を促進する有力な機会となるのが考えられます。ひるがえってみますと、インドの現代美術は、その伝統的な表現と、イギリスから導入された西洋美術との絶えざる融合によって展開されてきたといえます。展覧会は、このような現代美術の多様な展開に立って、全体を大きく俯瞰できるように構成されていますが、特に網羅主義を排して、29名の作家にしぼり、1人数点の約120点という規模になりましたが、40歳代から60歳代にわたる最も力のある層に、重点をおいています。

図録目次

迷宮からの帰還 J. スワーミナタン / 私の見たインド現代美術 本間正義 / 図版 / インド現代美術-その歴史的展望

アニス・ファルキ / 関連略年譜 / 作品リスト

図録体裁

■発行年：1988 ■頁数：122ページ（カラー28ページ） ■サイズ：255mm×190mm ■重量：450g

図録価格 650円 送料 350円（切手でお願ひします）

中国現代版画展

1931～1987

展覧会 1988/8/12～9/18



中国の現代版画の歴史は、我が国の版画と深い関係をもっており、我が国に留学した文豪の魯迅は、帰国後『藝苑朝華』をはじめとして、当時のヨーロッパ、日本、ソ連などの創作版画の成果を中国の若い青年達のために紹介していましたが、1931年日本の友人内山完造の実弟、内山嘉吉が上海を訪れたのを機会に彼を講師とした『木刻講習会』を開き、これは日中現代版画交流の第1ページともなったわけであり、

爾来57年、歴史の波のなかで大きく成長を遂げた中国版画は、魯迅の精神を土台として発展し、新たな社会状況の下で健やかにその成長を遂げました。

本展では、時代とともに大きく成長する中国版画の姿を、我が国との交流にも目を配りつつ、1931年の生誕から現在までを歴史を追って、200余点の作品、50余点の資料により展望するものです。

図録目次

中国現代版画の発展 李樺 / 中国現代版画と中日版画交流 李平凡 / 展示作品一覧 / 出品作家紹介 / 図版 / 中国現代版画史年表 / 左翼美術家聯盟成立前後 許幸之 / 魯迅先生と“一八藝社” 江豊 / 太行山抗日根拠地の年画と木刻運動回想 彦涵

図録体裁

■発行日：1988/8/12 ■頁数：220ページ（カラー4ページ） ■サイズ：275mm×215mm ■重量：900g

図録価格 1,000円 送料 460円（切手でお願ひします）

ルーベンスの版画展

ルーベンス工房の版画家たち

展覧会 1988/7/3～8/7



フランドルの画家ルーベンスは、北方バロック美術を代表する巨匠として知られています。しかし、主要な作品の多くは、欧米各地の美術館や大聖堂、教会に収められており、日本でみられる機会は限られています。ところで、膨大な作品を残したルーベンスの制作の特質は、多くの弟子たちをかかえた工房制作という、一種の共同作業にあります。油彩の作品もさることながら、ルーベンスはこれらの作品の多くを、工房版画家たちの手による複製版画として残しました。ルーベンスの原画による版画作品は約800点にのぼり、また記述に残された版画家数も約100人と数えられています。中には、ルーベンスの直接監督の下に制作された作品も数多くあり、ルーベンスが版画化によって、自身の作品の普及につとめたことがわかります。またこれらの作品の多様な広がりや、当時のルーベンスの根強い人気と、幅広い活動のあとを今日まで伝えてくれます。

さて、このたびルーベンスの原画による複製版画の展覧会を企画しました。ここに集められた118点の版画は、すべて現在国内にあるものですが、そのほとんどがルーベンスと同時代の17世紀に活躍した版画家たちによるものです。これらの作品によって、ルーベンスの原画と版画家による作品との関連、また美術史上において複製版画が果たした役割などをふりかえることができます。

図録目次

作品リスト / ルーベンス工房の版画制作 高橋裕子 / “複製版画”の系譜 佐川美智子 / 図版 / ルーベンス年譜 / 参考文献 / 作家別索引

図録体裁

■発行年：1988 ■頁数：142ページ ■サイズ：275mm×215mm ■重量：650g

図録価格 850円 送料 350円（切手でお願ひします）

永井一正版画展

展覧会 1988/4/10～5/15



永井一正。昭和4年に大阪に生れ、グラフィック・デザインの分野で数々の業績を残す彼は、1968年の東京国際版画ビエンナーレで東京国立近代美術館賞を受賞するなど、版画においても同様に第一線の作家として活躍しています。多様化する現代美術の世界での分野の枠を越えたその活動や、そのグラフィック・デザインの技法を使用した版画作品は、既存の版画界に大きな衝撃を与えるものでありました。

今回の展覧会では、かつて、自己の内部における人間的な情念を版画という分野で自由に解き放とうとした、と語ったこの作家の版画作品から48点を選び展示いたします。

図録目次

作家のこぼし / 図版 / グラフィック・デザイナー永井一正のグラフィック・アート 片岸昭二 / 略歴 / 文献目録 / 永井一正著述目録 / 収蔵品目録

図録体裁

■発行日：1988/4/10 ■頁数：58ページ（カラー8ページ） ■サイズ：275mm×215mm ■重量：340g

図録価格 500円 送料 300円（切手でお願ひします）

町田市立国際版画美術館収蔵品目録 海外編



この目録は、町田市立国際版画美術館が1989年7月現在に所蔵する海外の版画作品を収録したものである。本書は、作品の制作年代によって区分した三部門から構成されている。ただし、各世紀の末から初頭にかけて活動した作家の作品に関しては、その中心的活動期によって適当とおもわれる部門に分類した。

第Ⅰ部 15世紀から18世紀まで

第Ⅱ部 19世紀

第Ⅲ部 20世紀

各部は作者のアルファベット順に掲載した。原画作者と版刻者が異なる場合は、従来の文献において優先されてきたものを作者として先行させ、統一していない。作者が不明の作品、複数の版画家による作品集は各部の最後に、制作年代順にまとめた。

図録目次

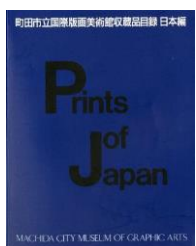
図版 / 文献 / 索引

図録体裁

■発行日：1990/3/31 ■頁数：190ページ（カラー8ページ） ■サイズ：275mm×215mm ■重量：750g

図録価格 1,400円 送料 350円（切手でお願ひします）

町田市立国際版画美術館収蔵品目録 日本編



この目録は、町田市立国際版画美術館が1986年9月30日現在に所蔵する日本の版画作品を収録した。カタログ掲載順は、作家を時代順に配列した。

但し、浮世絵、新版画、創作版画、現代版画はそれぞれグループに分けた。

図録目次

図版 / 目録 / 索引 / 参考文献

図録体裁

■発行日：1987/4/19 ■頁数：324ページ（カラー16ページ） ■サイズ：275mm×215mm ■重量：1290g

図録価格 900円 送料 460円（切手でお願ひします）